



Title	タイ語における反復語の機能
Author(s)	宮本, マラシー
Citation	外国語教育のフロンティア. 2022, 5, p. 11-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87565
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

タイ語における反復語の機能

Functions of Reduplicated Words in the Thai Language

宮本 マラシー

Abstract

In the Thai language, reduplication is a type of word formation that occurs with various functions, especially in nouns, verbs and adjectives. A lot of previous research has described the effects of reduplication on meaning variation. However although a few of those works have also mentioned to the effects of reduplication on functional shifts, there still has been no work focusing on the functions of reduplicated words. It is the purpose of this paper to study the characteristics of the functions of reduplicated words by analyzing the functions of nouns, verbs and adjectives in which reduplication occurs. The results will show the variations in the functions of words produced by reduplication, the direction of the functional shifts, the relations between functions and meanings, and the significant effect of reduplication on word formation as follows:

1) The variation in functions produced by reduplication: When reduplication occurs, some words retain their original function, but some lose it. In the former case, many reduplicated words can retain their original function while also functioning as a modifier as well. And in the latter case, all of the reduplicated words function as modifiers.

2) The direction of functional shifts: After reduplication, a lot of nouns and verbs shift to function as modifiers. In a similar way, in the case of adjectives that can originally function both predicatively and attributively; although a lot of them lose their predicative function, they still function as modifiers. Therefore, it is conceivable to make the claim that where functional shift occurs through reduplication, the direction of the shift will be in the same direction to be used as a modifier.

3) The relation between functions and meanings: Although some reduplicated words retain their original function, their meanings differ from the original primary meanings. Moreover, for reduplicated words which come to have multiple functions, the meanings conveyed by each function are not necessarily the same.

4) The significant effect of reduplication on word formation: As many reduplicated nouns, verbs and adjectives can be functioned as modifiers, it is possible to make the claim that reduplication significantly affects a variety of modifiers in the Thai language.

キーワード：タイ語、反復語、機能転換

Key words: Thai language, reduplicated words, functional shifts

1. はじめに

1.1 問題の所在及び先行研究

タイ語では、反復は造語法の一つであり、様々な品詞、特にそのほとんどは名詞、動詞、そして形容詞において行われる。語に反復が行われると、そこに様々な意味的な変化が生じることが多い。たとえば、「phûan phûan (友人・友人)」は名詞「phûan (友人)」の反復であり、「友人達」という意味で用いられ、複数の友人を示すようになる。また、「dam dam (黒い・黒い)」は形容詞「dam (黒い)」の反復であり、「黒っぽい」という意味で用いられ、基本義が弱化される、など。タイ語の反復語についての記述は以前から少なからずある。たとえば、ブルミンヘン (Bruminhen) (1966)、ソムポン (Sompong) (1967)、パントオメター (Bandhmedha) (1970)、プラシットラットシン (Prasithrathsint) とフンチャムローン (Hoonchamlong) (2001)、サヴェートマライ (Savetamalaya) (2001)、三上 (2002)、アンチャリースクーン (Anchaleenukoon) (2003)、宮本 (2003)、イワサキ&インカーピロム (Iwasaki&Ingkaphirom) (2005)、パックスアスック (Paksasuk) (2013)、そして宮本 (2019、2020、2021)、など。それらの記述では主に

語の反復から派生される意味について論じられているが、Paksasuk (2013)と宮本 (2019、2020、2021) には、反復によって生じられる変化は意味以外に、語の機能においても見られるということも言及されている。

Paksasuk (2013)は、タイ語の反復の一環として英語から借用された語に見られる反復についても論じている。英語から借用された語は繰り返して用いられると、元の英語から変化するのとは意味以外に、機能もあることを述べている。機能については、名詞から修飾詞への変化が見られるものもあることを指摘している (arts. tu. ac. th/culture/010856. pdf.)。

宮本 (2019)は、タイ語の名詞に反復が行われると、意味的な変化以外にも、たとえば、「phûu-yîn bân bân (ごく普通の女性)」における「bân bân (家・家)」や「ʔarəi khôot khôot (すごくおいしい)」における「khôot khôot (祖先・祖先)」、といった名詞から形容詞や副詞への転成が見られるように、名詞の機能に変化が生じることもであると指摘している (宮本 2019:49)。

また、宮本 (2020)は、タイ語の動詞に反復が行われると、様々な意味的な変化が生じるだけでなく、たとえば、「rûaŋ lén lén (気軽にできること)」における「lén lén (遊ぶ・遊ぶ)」や「khăai pen pen (生きたまま売る)」における「pen pen (生きる・生きる)」などといった、反復された動詞は名詞に後続し形容詞的に用いられることや、他の動詞に後続し副詞的に用いられることもあるように、動詞から形容詞や副詞への転成が見られ、動詞の機能に変化が生じることもであると指摘している (宮本 2020:28)。

さらに、宮本 (2021)はタイ語の形容詞における反復についても論じている。本来タイ語の形容詞は、述語の中心となる機能(本稿では述語の中心となる機能を持つ形容詞を叙述形容詞という：以下同様)も持つし修飾詞の機能も持つが、形容詞に反復が行われると、そのどちらの機能も果たせるものもあれば、叙述形容詞の機能は失うものもあると指摘している(宮本 2021:42)。

上記のとおり、反復によって生じる語の機能的な変化は Paksasuk (2013)と宮本 (2019、2020、2021) の記述には言及されているが、いずれの研究においても機能に焦点を当てて考察されたものではない。また、今のところ、そのような研究は管見の限り行われていない。全般的にタイ語においては語に反復が行われると、その語の機能においては変化が見られるかどうか、また、変化が見られる場合、どのような特徴があると考えられるのかについてはまだ不明な点が残されている。

1.2 研究目的及び研究資料

本稿は、語に反復が行われることによって生じる機能に焦点を当てることで、機能的に変化が生じる場合には、どのような特徴が見られるのか、またその特徴を踏まえて機能転換の方向性はどのように考えられるのかを明らかにすることに目的がある。なお、タイ語では一般的に反復は主に名詞、動詞そして形容詞において行われていると思われるので、研究の対象として用いる語は、名詞、動詞そして形容詞の反復語にする。それらの名詞、動詞、そして形容詞の反復語の資料は、主として宮本 (2019、2020、2021) から引用するものや、インターネット上で見られる表現から収集したものであるが、加えて、タイ語母語話者コンサルタント (以降：コンサルタント)¹⁾に作成してもらったものもある。引用したものはその出典をそれぞれの後部に記す。出典が記されていないものは、コンサルタントに作成してもらったものである。

なお、本稿で研究の対象として用いる反復語は、語の全体を繰り返して作られる反復語²⁾のことであり、「phûan phôn」、「dám dam」などのように語の全体ではなく一部 (母音、声調等)

を変えた上で作られるものは対象外である。

2. 反復によって生じる語の機能

本章では、反復が行われる語の機能について、収集した資料を基に、名詞、動詞、そして形容詞といった品詞ごとに記述していく。

2.1 反復が行われる名詞の機能

本節は名詞に反復が行われると、そこに見られる機能について、2.1.1～2.1.3 で例文を示しながら記述する。

2.1.1 名詞→名詞

名詞が繰り返されても、文中で主語や目的語として名詞的な機能のままで使用されるものがある。本項ではその機能で用いられている反復語の例を提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (1) Santi chuan phûan phûan pai loŋ khanēen sǎŋ lûak-tǎŋ samaachík saphaa phûutheēn rāatsadōon.
サンティ (男性の名前) は友人たちを誘って、国会議員の選挙の投票に行った。

[<https://qanda.ai>]

- (2) yâat yâat chók, yaai wai cèt-síp-?èt pii pùai tít tǎŋ kháo roonphayaabaan wan diao dáp.
寝たきりの 71 歳のお婆さんは入院してたった 1 日だけで亡くなったことに親戚たちはショックを受けた。

[<https://news.trueid.net>]

- (3) nûi dèk dèk, rao maa rabaai sǐi rūup phrá?-?aathít kan, phrá?-?aathít sǐi ?arai kháp.
子供たち、太陽の絵に色を塗りましょう。太陽は何色でしょう。 [宮本 2019 : 36]

- (4) chán mǎi chái dèk dèk léeo ná, mǎi tǎŋ pen hùan chán ròok.
私はもう子供じゃないですよ。私のことは心配しなくてもいいですよ。

[youtube.com/watch?v=7T92SCgB4CQ]

- (5) Johnny Depp bùk tham sǎephraí fēen fēen nai choo khōŋ Disneyland.
ジョニーデップはディズニーランドのショーでファン達を驚かせた。 [宮本 2019:44]

(1) の「phûan phûan (友人・友人)」は「phûan (友人)」の繰り返しであり、「友人達」という複数の友人を表し、目的語として用いられている。(2) の「yâat yâat (親戚・親戚)」も例(1)と同じように、名詞「yâat (親戚)」に反復が行われると、「親戚たち」という複数の親戚を表し、主語として用いられている。(3) の「dèk dèk (子供・子供)」は名詞「dèk (子供)」の繰り返しであり、「子供達」という意味で、呼称詞として用いられている。(4) の「dèk dèk (子供・子供)」は「dèk (子供)」の基本義と同じ意味で用いられている。(5) の「fēen fēen (ファン・ファン)」は英語の「fan」からの借用語の反復語であり、複数の「ファン」を表し、目的語として用いられている。

(1)～(5) で示している名詞は反復が行われても名詞として用いられている。このような名詞の反復語には単音節の単純語しか見られず、多音節の単純語や複合語のものは見られない。そ

して、それらの反復語はタイ語だけではなく、(5)のように英語から借用されたものも見られる。また、文中で主語や目的語、呼称詞として用いられ、基本義の複数や不特定多数の意味合いで用いられるものもあれば、(4)のように全く基本義と同じ意味で用いられるものもある。

2.1.2 名詞→形容詞

名詞に反復が行われると、形容詞的な機能を果たし、他の名詞を修飾するために用いられるものがある。本項では、その機能として用いられている反復語の例を提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (6) samăi dèk dèk bāan yùu klāi wát, wan yùt kǒ hǎa rǎan dǎen kǎo pai lén.
子供時代、(私の)家はお寺の近くにあったので、休みの日はお寺で遊んでいた。
 [https://www.facebook.com]
- (7) rót phūan phūan phǐi phǐi kīn nám-man kan kīi kiloméet tǒo līt.
友人たちお兄さんたち (=皆さん) の車はガソリンを 1 リットルあたり何キロ走れますか。
 [https://www.civicesgroup.com]
- (8) tǒon klaan khūan mák ca mǎi gǎan, tǎe tǒon yen yen khām khām mák ca gǎan con thon mǎi wǎi.
 夜は普通あまり眠くないが、夕方頃や宵の頃に我慢できないほど眠くなる。
 [https://www.pantip.com]
- (9) phūu-yǐn khon nán nǎ, khon thǐi sǎi sǎa sǐi fǎa thǎathaan phūu-yài phūu-yài nǒi pen khruu khǒng chán.
 その女性、青い服を着ていて、(年齢よりも) 落ち着いて見える人が私の先生です。
 [宮本 2019:37]
- (10) lūuk-sǎao chǒp tǎen tua bèep phūu-chaai phūu-chaai.
 娘は男っぽい服装をするのが好きです。
 [宮本 2019:39]
- (11) plaā loomaa pen rǒi rǒi phan phan,fūuŋ yài thǐisút thǐi khǎi hén nai chiiwít.
 生まれて初めて見たこんなに大きなイルカの群れ、何百何千匹もいる。
 [https://fo-fo.facebook.com]
- (12) yàak pen phūu-chaai mǎen mǎen, thamgai dii kháp.
男らしい男になりたいのですが、どうすればいいですか。
 [http://pantip.com]
- (13) phūu-chaai tǐi tǐi kǎo chǒp phūuyǐn bèep nǎi. campen tǒi mǎi mǎi mǎi.
中国人っぽい顔をしている男はどのような女性が好きでしょう。中国人っぽい顔をしている女性でないとイケないのかどうか。
 [宮本 2019:44]
- (14) rūan klūai klūai khǎe nǐi khrai kǒ tham dǎi.
 これぐらいの簡単なことは誰でも出来るよ。
 [dict.longdo.com]

(6)の「dèk dèk(子供・子供)」は「dèk(子供)」の繰り返しであり、「samăi(時代)」を修飾し、「子供時代、小さい時」という意味で形容詞的に用いられている。(7)の「phūan phūan(友人・友人=友人たち)」と「phǐi phǐi(兄／姉・兄／姉=お兄さん(お姉さん)たち)」は「皆さん」という意味で、「rót(車)」を修飾している。(8)の「yen yen khām khām」は「yen(夕方)」と「khām(宵)」の繰り返しであり、「tǒon(時)」を修飾し、「夕方の頃や宵の頃」を表し、「夕

方」または「宵」と限定せずに、時間的な幅が広い意味合いで用いられている。(9)の「phûu-yài phûu-yài (大人・大人)」は「大人らしい」、「大人びた」、「大人のように落ち着きのある」と慣用的な意味合いを持ち、「tháathaaj (様子、雰囲気)」を修飾している。(10)の「phûu-chaai phûu-chaai (男・男)」は「bèep phûu-chaai phûu-chaai」という形で、「男っぽい、男らしい」という意味合いを持ち、「bèep (タイプ)」を修飾している。(11)の「róoi róoi phan phan (百・百・千・千)」は「róoi (百)」と「phan (千)」の繰り返しであり、「AABB」という形式で「pen (なる)」と共に用いられている。ここの「pen róoi róoi phan phan」は「数百、数千」または「非常に多い」という意味合いで、「plaa loomaa (イルカ)」を修飾している。(12)の「meen meen (男・男)」は英語の「man (男)」からの借用語の繰り返しであり、「男らしい、紳士の」という意味で「phûu-chaai (男)」を修飾している。(13)の「tîi tîi (華僑の少年・華僑の少年)」は潮州語の「tîi (華僑の少年)」の反復であり、「肌が白くて目が細くて中国人っぽい」という意味で、「phûu-chaai (男)」を修飾している。(14)の「klûai klûai (バナナ・バナナ)」は「klûai (バナナ)」の繰り返しであり、「簡単な」という慣用的な意味合いを持ち、「rûaaj (こと)」を修飾している。

上記の通り、名詞に反復が行われると、形容詞的に他の名詞を修飾する語として用いられるようになっている。このように形容詞的な機能を持つようになる名詞の反復語には、単純語の名詞も見られるし、複合語の名詞も見られる。またタイ語の名詞だけではなく英語や潮州語のような外国から借用した名詞も見られる。そして、形容詞的に用いられると、(6)のようにその名詞の本来持つ基本義のままで用いられる場合もあるが、それよりも、その基本義と違った意味合いで用いられるものの方が主流である。

2.1.3 名詞→副詞

名詞が繰り返されると、副詞的に用言を修飾する語として用いられることもある。本項ではその機能で用いられる反復語の例を(15)～(20)のように提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (15) ɲɔɔn pen dèk dèk ləoi ná kɛɛ.

子供みたいにに拗ねているね。

[宮本 2019 : 36]

- (16) yaŋ mii khon ʔiik pen róoi róoi phan phan khon thii rúusùk bèep diao kàp rao.

私達と同じように感じている人は他にもまだ数百数千人という。

[<https://www.mangozero.com>]

- (17) khuen nîi thoو hăa phôm mài, khâm khâm ná.

今夜 僕にもう一回電話して、宵のうちにね。

[宮本 2019:41]

- (18) feen chóp plôoi hâi róo pen chûamoon chûamoon.

彼女によく 何時間も／長く待たされた。

[宮本 2019:42]

- (19) Oam Atchaa ráp meen meen, khóp sáo kaolîi tái hăa duan.

オーム・アッチャー(俳優)は韓国の女性と付き合って5カ月になることを男らしく認めている。

[news.room44.net]

- (20) khanôm-pan ráan nîi ʔarəi khôot khôot.

この店のパンはすごく美味しい。

[<https://www.interset.co.uk>.]

(15) の「dèk dèk (子供・子供)」は「pen (なる、～である)」と共起し、「pen dèk dèk」となって、「子供みたいに」という意味で、「nɔɔn (拗ねる)」を修飾している。(16) の「róoi róoi phan phan」は「róoi (百)」と「phan (千)」の繰り返しであり、「pen (なる)」と共起し、「pen róoi róoi phan phan」となり、「数百、数千」または「非常に多い」という意味合いで、「mii khon (人がいる)」を修飾している。(17) の「khâm khâm (宵・宵)」は「khâm (宵)」の繰り返しであり、「宵の内に」という意味合いを持ち、「thoo hǎa phôm (僕に電話をする)」を修飾している。(18) の「chûamoong chûamoong (時間・時間)」は「pen (なる、～である)」と共起し、「pen chûamoong chûamoong」となり、「何時間も、長く～」という意味で「rɔɔ (待つ)」を修飾している。(19) の「mɛen mɛen (男・男)」は例 (12) の「mɛen mɛen」と同じく、英語の「man (男)」からの借用語の繰り返しであるが、ここの「mɛen mɛen」は「紳士的に、男らしく」という意味で用いられ、動詞「ráp (認める)」を修飾している。そして、(20) の「khôot khôot (先祖・先祖)」は名詞「khôot (先祖)」の繰り返しであり、基本義「先祖」から離れて「すごく」という慣用句的な意味合いを持ち、「?arɔi (美味しい)」を修飾している。

(15) ～ (20) のとおり、名詞の反復語は動詞 (句) を修飾し、副詞的に用いられている。このような機能として用いられている反復語には単音節の単純語の名詞だけではなく、多音節の単純語も、またタイ語以外にも英語からの借用語も見られる。すべての反復語はそれぞれの名詞の本来持つ基本義から離れて別のことを示すようになっている。基本義のままで用いられるものは見られない。

上述 (2.1.1～2.1.3) のとおり、名詞に反復が行われても、名詞の機能が存続される場合もある。逆に失われる場合もある。前者はたとえば、名詞、形容詞、副詞のいずれの機能としても用いられている (3)、(4)、(6)、(15) の「dèk dèk (子供・子供)」、名詞の機能としても形容詞的な機能としても用いられているが副詞的な機能としては用いられていない (1) と (7) の「phúan phúan (友人・友人)」に見られる。それに対し、後者は形容詞的と副詞的な機能として用いられているが名詞の機能としては用いられていない (8) と (17) の「khâm khâm (宵・宵)」、形容詞の機能しかみられない (13) の「tǐi tǐi (華僑の少年・華僑の少年)」と (14) の「klúai klúai (バナナ・バナナ)」、そして副詞の機能としてしか用いられていない (20) の「khôot khôot (先祖・先祖)」に見られる。また、前者の場合、タイ語だけではなく外国からの借用語において行われる反復語にも見られるが、動物や事物等ではなく人間を表す単音節の単純語の名詞において行われる反復語にしか見られない。さらに名詞の本来持つ基本義のままで用いられるものも見られるし、複数または不特定多数の意味合いで用いられるものも見られる。そして後者の場合、タイ語においても外国からの借用語においても見られるし、人間、動物、植物等様々な種類を表す単純語および複合語においても見られる。また、意味合いについてはそれぞれの名詞の本来持つ基本義が残されているものも見られるが、それよりも基本義と違った様々な意味合いを持つようになるものの方が多く見られる。

2.2 反復が行われる動詞の機能

本節は、反復された動詞は、文中においてどのような機能として用いられるのかについて、2.2.1～2.2.3 で例文を示しながら記述する。

2.2.1 動詞→動詞

動詞に反復が行われても動詞として用いられるものが多く見られるが、それぞれの動詞の本

来持つ基本義と違った意味合いで用いられる。本項では動詞に反復が行われても動詞の機能として用いられている反復語の例を (21) ～ (31) のように提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (21) phoo doon thăam khaó kó yím yím, mǎi phūut ?arai.
聞かれると、ちょっと微笑んで何も言わなかった。 [宮本 2020:15]
- (22) hàaη hàaη kan wái koon khráp.
とりあえず互いに離れるようにしましょう。 [https://www.tiktok.com]
- (23) mii naan ?arai kó tham tham pai, yàa lûak naan.
仕事を見つけたら、どんな仕事でも選ばないで、ささっとしなさい (決めなさい)。 [https://pantip.com]
- (24) toon yáai pai mǎi mǎi khun ?aat ca rúusúk wǎa thǎeo nán toon klaaη-khuun nǎa klua, tǎe phoo yùu yùu pai ca chin khun ?eeη khráp.
引越して最初の頃はその辺の夜が怖いと感じるかもしれませんが、住んでいる内に自然に慣れてくると思います。
- (25) khít khít léeo mǎi súu dii kwǎa.
(何度も繰り返して) 考えた結果、買わない方がいい。 [宮本 2020:16]
- (26) pai pai pai!
行け！行け！行け！ [宮本 2020:17]
- (27) chûai chûai kan bèek khorōη nǎk.
重たい荷物を運ぶのは助け合ひましょう。 [https://www.thairath.co.th]
- (28) khǎai ?aahǎan thalee sòt sòt, sòt cīη cīη, yaη pen pen yùu lǎei.
新鮮なシーフードを売っています。本当に新鮮です。まだ生きている状態です。 [宮本 2020:22]
- (29) chǎu nǐi khún khún mǎan khǎei dǎiyin thǐnǎi.
この名前はどこかで聞いたことがあるような気がする。 [宮本 2020:23]
- (30) naalikaa tit phanǎη cháai pai naan naan, khēm đǎen đǎen yùt yùt, kǎe dǎi ?eeη nǎai mǎak.
壁掛け時計は、長く使っていると、針が動いたり止まったりするようになるけど、自分で治せるよ。とても簡単だ。 [youtube.com/watch?v=o-jRq5x1y_o]
- (31) thammai riak sii?ú khǎao thǎη thǐi hěn hěn yùu wǎa pen sǐi dam.
色が黒いのは明らかにのになぜ白いお醤油とよぶのでしょうか。 [宮本 2020:24]

(21) の「yím yím (微笑む・微笑む)」は「yím (微笑む)」の繰り返しであり、「何か隠しごとがあったり、答えたくない事情があるので微笑みでごまかしている」と解釈できる。ここでの「yím yím (微笑む・微笑む)」は心から微笑んでいるのではなく、「仕方なく少し微笑んでいる」という意味合いで用いられ、動作主の動作または行動における消極性や不自然さが感じられる。(22) の「hàaη hàaη (離れる・離れる)」も「ちょっと離れる」という意味合いで、「hàaη (離れる)」の本来持つ意味より消極性が感じられる行動を示している。(23) の「tham tham (する・する)」は「ささっとする」という意味合いで、「迷ったり、真剣に考えたりしないで、適当に素早くする」ことを表している。(24) の「yùu yùu (いる／住む・いる／住む)」は「pai (行く)」と共に、「住んでいる内に」という意味合いで継続的な行動を表している。(25) の

「khít khít (考える・考える)」は「何度も考える」という意味合いがあり、繰り返す行動を表す場合に用いられている。(26) の「pai pai pai (行く・行く・行く)」は命令形として用いられている「pai! (行け!)」の繰り返しであり、相手に対する「行く」という行動を直ちに行うように催促するという意味合いを持つ。(27) の「chûai chûai (助ける・助ける)」は「助け合う」という意味合いで、「kan (互いに)」と共に起し、不特定多数の人の行動を表している。(28) の「pen pen (生きる・生きる)」は「生きている」状態が強調される場合に用いられている。(29) の「khún khún」は「慣れ親しむ、またはよく目や耳にする」という基本義を持つ動詞「khún」の繰り返しであり、「耳にしたことがあるような気がする」と、漠然的な意味合いを持つようになっている。(30) の「dǎən dǎən yùt yùt (歩く・歩く・止まる・止まる)」は「dǎən (歩く)」と「yùt (止まる)」の「AABB」という形式での反復であり、「～たり～たりする」という意味合いを持ち、複数の行動が交互に繰り返されている状況を表している。(31) の「hěen hěen (見える・見える)」は「明らかである」という慣用句的な意味合いを持つようになっている。

(21) ～ (31) で提示しているように、反復された動詞は動詞として用いられているにもかかわらず、それぞれの動詞の本来持つ基本義とは違った意味合いで用いられている。また、複合語ではなく、単純語の動詞だけにおいて行われることが分かった。

2.2.2 動詞→ 形容詞

動詞に反復が行われると、名詞を修飾して形容詞的に用いられるようになるものも少なくない。本項では形容詞的な機能として用いられている動詞の反復語の例を (32) ～ (38) のように提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (32) baaj khon mii rúan khriat khriat thǎathǎom khǎo maa khanàat nǎi kǎ sǎamàat nǎon lap dǎi.

ストレスを感じることがどんなにたくさんあっても眠れる人もいる。

[<https://facebook.com>]

- (33) phêet dân kaan ráksǎa hǔu taa khǎo camùuk pracam roonphayaabaan muan Phutsothorn

Chachuangsao....truát phóph nǎon pen pen camnuan mǎak nai phroon camùuk khon khǎi.

チャチュアンサオ県ブソートン市民病院の耳鼻科医は患者の鼻を診察して、鼻腔から多くの生きている蛆を発見した。

[sanook.com/news/8365166/]

- (34) mǎe sǎn hǎi khǎo pai ráp yǎat hǎan hǎan khon nǎn thǎi Moo Chit cháo wan nǎi.

彼のお母さんは彼に、今朝モーチットへ一人の遠い親戚を迎えに行くように命令した。

[宮本 2020:25]

- (35) pǎet chǎy sǎam thǎi wái, dǎiyin sǎn khún khún tǎon tǎi nǎn nǎk wǎa fǎn.

テレビの3チャンネルが付けっ放しで、夜中の1時ごろ(聞き) 慣れた声が聞こえてきて、夢だと思った。

[<https://twitter.com>]

- (36) sǎp thǎathaaj tǎon phlǎo phlǎo thǎi phǎu-chaaí mǎi khǎoí rúu-tua maa kǎon wǎa man cháaj mii sanèe.....

男性が本当に魅力があることに気づいていない、10 の気を抜いた様子、、、。

[<https://undubzapp.com>]

- (37) kaan mii lǎuk mǎi cháí rúan lén lén thǎam tua ?eəj hǎi dǎi wǎa phróom rǎu mǎi.

子供を持つことは軽率にすることではない。(いろいろな問題に対応できるように) 心構えができていのかどうか自分自身に聞きなさい。

[youtube.com/watch?v=zvXXZV5uEKo]

- (38) weelaa thii ca phóot facebook, IG thiiirai kǒt tǒng maa nǎp khít khépchǎn dèt dèt kham khom doon doon thúk thii.

フェイスブックやアイジーに投稿するときはいつも、ずば抜けてよいキャプションや心を掴むキャッチフレーズを考えないといけない。 [https://www.wongnai.com]

(32) の「khriat khriat(ストレスを感じる・ストレスを感じる)」は「khriat (ストレスを感じる)」の繰り返しであり、「どちらかと言えばストレスを感じる方」という、漠然的な意味合いを持つようになって、「ráaŋ (こと)」を修飾している。(33) の「pen pen(生きている・生きている)」は「pen (生きている)」状態が強調され、「nǒn (蛆)」を修飾している。(34) の「hàaŋ hàaŋ (離れる・離れる)」は「yáat (親戚)」を修飾して、「yáat hàaŋ hàaŋ」となって、「遠い親戚」という意味合いで用いられている。(35) の「khún khún (慣れる・慣れる)」は「聞いたことがある、聞き慣れた」という意味合いで、「sǎaŋ (声)」を修飾している。(36) の「phlǎo phlǎo (うっかりする／気を抜く・うっかりする／気を抜く)」は「tǒn (時)」を修飾し、「うっかりしている時、気を抜いている時」という意味で用いられている。(37) の「lên lên(遊ぶ・遊ぶ)」は「lên (遊ぶ)」の繰り返しであるが、「軽率に～する」という意味合いで用いられ、「ráaŋ (こと)」を修飾している。(38) の「dèt dèt(掴む・掴む)」は「dèt (掴む)」の繰り返しであるが、「ずば抜けてよい」という意味合いを持つようになり、「khépchǎn (キャプション)」を修飾している。そして、「doon doon(当たる・当たる)」は「doon(当たる)」の繰り返しであり、「心を掴む、気持を掴む」という意味合いで用いられ、「kham-khom (キャッチフレーズ)」を修飾している。

上記に提示した (32) ～ (38) の通り、反復された動詞は名詞の修飾詞として、形容詞的に用いられている。それらの反復語には、複合語や多音節の単純語は見られなかったもので、基本的には単音節の単純語の動詞において行われる。そして、反復されることでそれぞれの動詞の本来持つ基本義が強化される場合もあれば、反対に弱化される場合もあり、また基本義から離れて慣用句的な意味合いを持つようになる場合も多く見られる。

2.2.3 動詞→ 副詞

動詞の反復語は、他の動詞または文節を修飾し、副詞的に用いられる場合もある。本項では副詞的な機能として用いられている動詞の反復語の例を (39) ～ (42) のように提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (39) thǎo khuan yùu hàaŋ hàaŋ phúak ní wái ca dǐi kwàa, mǎi yàaŋ nán thǎo ?àat duat-rǒn.

君はこの連中から離れている (関わらない) 方がよい。さもないと、君自身が困るよ。

[https://longdo.com]

- (40) yùu yùu phǒm kǒ khítthǎy fǎen kào, thǎy thii mii fǎen mǎi léeo.

新しい彼女が出来たのに、突然前の彼女を恋しく思い出す。 [https://www.dek-d.com]

- (41) phii tò raakhaa lên lên, tǎe khon khǎai lót hǎi cǐy cǐy lǎoi tǒy sǔu.

私は遊び半分で値段を交渉したが、店員が本当に負けてくれたので、買わなければな

らなかった。

[宮本 2020 : 18]

- (42) *sûa meu sớng thỉ nũu sũu nã, phlǎo phlǎo pàan nĩ cảo-khớng ʔaət ca taai pai léeo kớ dãi mán.*
 あなたが買った中古服、ひょっとしたらその持ち主はもう生きていないかもしれないよ。
 [宮本 2020 : 25]

(39) の「yùu hàan hàan (いる・離れる・離れる)」は「関わらない」という意味合いを持つ。ここの「hàan hàan (離れる・離れる)」は動詞「hàan (離れる)」の反復であり、副詞的に「yùu (いる)」という動詞をを修飾している。(40) の「yùu yùu (いる／住む・いる／住む)」は「yùu (いる／住む)」の繰り返しであり、「突然」という意味合いで用いられ、「khítthũng fẽen kảo (前の彼女を恋しく思い出す)」という動詞句を修飾している。(41) の「lên lên (遊ぶ・遊ぶ)」は動詞「lên (遊ぶ)」の反復であるが、「遊び半分で、本気で〜しない」という意味合いで用いられ、動詞句「tỏ raakhaa (値段を交渉する)」を修飾している。(42) の「phlǎo phlǎo (うっかりする／気を抜く・うっかりする／気を抜く)」は「ひょっとしたら」という意味合いで、副詞的に、「pàan nĩ cảo-khớng ʔaət ca taai pai léeo kớ dãi mán (持ち主はもう生きていないかもしれない)」を修飾している。

(39) ～ (42) の例文で示されているように、反復された動詞は他の動詞や文節の修飾詞として副詞的に用いられている。それらの反復語は、多音節の単純語や複合語の動詞であるものは見られず、またそれぞれの動詞の本来持つ基本義と違った意味合いで用いられるものしか見られなかったのも、副詞的に用いられる動詞の反復語は、基本的に単音節の単純語の動詞において行われるものであり、慣用句的な意味合いで用いられるものだと考えられる。

反復される動詞は主に単音節の単純語の動詞において行われるものであり、そして、反復が行われても動詞の機能が存続するものもあれば、失われるものもある。前者は、動詞に反復が行われても依然として動詞の機能としてしか用いられていない (23) の「tham tham (する・する)」、(25) の「khít khít (考える・考える)」、(26) の「pai pai (行く・行く)」、そして (27) の「chũai chũai (助ける・助ける)」に、そして動詞、形容詞、副詞、のいずれの機能としても用いられている (22)、(34)、(39) の「hàan hàan (離れる・離れる)」に、動詞と形容詞のいずれの機能としても用いられているが副詞としては用いられていない (29) と (35) の「khún khún (慣れる・慣れる)」に、そして動詞と副詞としては用いられているが形容詞としては用いられていない (24) と (40) の「yùu yùu (いる／住む・いる／住む)」に見られる。一方、後者は形容詞としては用いられるが、動詞と副詞としては用いられていない (38) の「dèt dèt (摘む・摘む)」と「doon doon (当たる・当たる)」に、そして、形容詞と副詞として用いられているが動詞としては用いられていない (36) と (42) の「phlǎo phlǎo (うっかりする／気を抜く・うっかりする／気を抜く)」に見られる。また機能的にはそのまま動詞として用いられていても、それぞれの動詞の本来持つ基本義のままではなく、基本義が強化されたり、弱化されたり、繰り返して行なわれる行動を表したりする等のように様々な意味合いで用いられるようになる。一方、副詞的に用いられている動詞の反復語は、それらの動詞の本来持つ基本義から離れて慣用句的な意味合いで用いられているものが主流である。

2.3 反復が行われる形容詞の機能

タイ語では、形容詞は叙述形容詞以外にも、名詞や動詞を修飾する機能も持つ。たとえば、「dèk khon nĩ sũun (この子は背が高い)」にある「sũun (高い)」は叙述形容詞であり、「khon sũun dãi

priap (背が高い人は有利です)」にある「sũuŋ (高い)」は名詞「khon (人)」を修飾し、そして「khái khũn sũuŋ (熱は高く上がった)」にある「sũuŋ (高い)」は動詞「khũn (上がる)」を修飾している。本節は形容詞に反復が行われると、それぞれの反復語はどのような機能として用いられるのかについて、2.3.1～2.3.3 で例文を示しながら記述する。

2.3.1 形容詞→ 叙述形容詞

本項では反復される形容詞が叙述形容詞として用いられている例を (43) ～ (48) のように提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (43) tũm nãm nĩ ca nãa nãa lẽ? yũu lúk lúk, thũi phĩu ca deẽŋ deẽŋ.
この水ぶくれはちょっと分厚くて、ちょっと深いところにあって、皮膚(の表面)は赤っぽくなる。
[宮本 2021:32]
- (44) mĩi phũu-chaai yũu thĩnãn, thãathaang plẽk plẽk.
そこには男性がいて、様子がちょっとおかしい。
[https://longdo.com]
- (45) cam dãi wã sãi man sũ nãm-taan nãm-taan, mãi chãi sũ khãao.
(バッグの)肩掛けの紐の色は白いのではなく、茶系だったという記憶がある。
[宮本 2021:32]
- (46) rãan kaafẽ rim thaang, banyaakãat sabaai sabaai.
道端のコーヒーショップです。リラックスした雰囲気です。[https://www.tripadvisor.fr]
- (47) Nik chiu chiu yũu lẽeo, khõot chiu lãoi thũi-rák.
私は落ち着いている、すごく落ち着いているわ。
[宮本 2021:40]
- (48) Benli sũu sũu sãi sãi, nãarák dũi, cão-yĩŋ Tatsika lãoi chõp khui dũai.
ベンリー (男性の名前) は正直で純粋です。それが可愛いので、タシカー王女は彼と話すのが好きです。
[宮本 2021:36]

(43)～(48)に見られる「nãa nãa (厚い・厚い)」、「deẽŋ deẽŋ (赤い・赤い)」、「plẽk plẽk (おかしい・おかしい)」、「nãm-taan nãm-taan (茶色の・茶色の)」、「sabaai sabaai (楽な・楽な)」、「chiu chiu (chill・chill)」そして「sũu sũu sãi sãi (正直な・正直な・透明な・透明な)」は叙述形容詞として用いられている。「nãa nãa (厚い・厚い)」は「ちょっと分厚い」、「deẽŋ deẽŋ (赤い・赤い)」は「赤っぽい」、「plẽk plẽk (おかしい・おかしい)」は「どちらかと言えばおかしい／ちょっとおかしい」、「nãm-taan nãm-taan (茶色の・茶色の)」は「茶系の」、そして「sabaai sabaai (楽な・楽な)」は「リラックスしている」という意味合いで用いられている。(47)にある「chiu」は英語の「chill」から来て、「落ち着いている、楽な、リラックスしている」という意味で用いられている。(48)の「sũu sũu sãi sãi (正直な・正直な・透明な・透明な)」は複数の形容詞が「AABB」という形式で用いられている。(48)にある「sãi」は「透明な」から「純粋」へと意味的な拡張が行われ、「sũu sũu sãi sãi (正直な・正直な・透明な・透明な)」は「正直で純粋」という意味を持ち、ベンリーの気質を表している。

ここで反復される形容詞は上記の通り叙述形容詞として用いられている。それらの叙述形容詞は単音節や多音節の単純語において行われる反復語もあれば、複合語において行われるものもある。そして、タイ語の形容詞だけではなく、英語から借用した形容詞において行われるものも見られる。またそれぞれの形容詞の本来持つ基本義より意味が曖昧化、弱化される場合も

あれば、基本義から拡張されて別の意味合いで用いられるものもあるし、また「AABB」という形式で複数の性質や状態等の共在を表す語として用いられる場合も見られる。

2.3.2 形容詞→ 名詞の修飾詞

反復される形容詞が名詞を修飾するために用いられるのも多く見られる。本項では反復される形容詞が名詞を修飾するために用いられている例を (49) ～ (57) のように提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (49) kaan dâiráp “sěeŋ-děet ʔòon ʔòon” chûaŋ cháw mii prayòot yàaŋrai báaŋ.
午前中の「弱い日光浴」をすることにはどのようないいことがあるのでしょうか。
[https://www.youtube.com]
- (50) prathêet thai rao mii khwaam-chûa plèk plèk yùu mâak maai.
タイには変わった信仰がたくさんある。
[https://www.sanook.com]
- (51) krápǎo deŋ deŋ bai nán sài fai khanàat A4 dâi mái.
その赤っぽい鞆は A4 のファイルが入る？
- (52) khun chǎp phûu-chaai kèe kèe mâi chài rûu khráp.
君は年配の男性が好きなんじゃないんですか。
[https://www.youtube.com]
- (53) thǎeo nán mii ráan ʔarǝi ʔarǝi saʔaat saʔaat yùu láai ráan.
そこには、清潔で美味しい店が何件もあります。
[宮本 2021:37]
- (54) yîi-sip sɔŋ phǒm sǎn2020, kèe kèe, chík chík.
2020 年のシックで格好いい20 のスタイルのショートヘア。
[宮本 2021:38]
- (55) khon-ráai raai ní mâi chài manút, klâa yiq dèk taa dam dam.
この犯人は、小さくあどけない子供を撃つことができるなんて、人間ではない。
[宮本 2021:39]
- (56) hǎa ráan chiu chiu sǎŋ ʔarai maa kin rɔŋ-thóŋ kan lǝi mái.
リラックスした雰囲気の店を探して、お腹が空く前に何か食べましょうか。
[宮本 2021:40]
- (57) phɔɔ kan thii kǎp phûan-rûam ɲaŋ hùai hùai.
能力がない同僚にはもううんざりだ。
[https://thepractical.co]

(49) の「ʔòon ʔòon (やわらかい・やわらかい)」は「sěeŋ-děet (陽射し)」を修飾し、「弱い陽射し」という意味で用いられている。(50) の「plèk plèk (変わった／おかしい・変わった／おかしい)」は「変わった」という意味で「khwaam-chûa (信仰)」を修飾している。(51) の「deŋ deŋ (赤い・赤い)」は「赤っぽい」という意味合いがあり、「krápǎo (鞆)」を修飾している。(52) の「kèe kèe (老いた・老いた)」は「年配の、高齢の」という意味合いがあり、「phûu-chaai (男性)」を修飾している。(53) の「arǝiʔ arǝi saʔaat saʔaat」は「ʔarǝi (美味しい)」と「saʔaat (清潔な)」からの「AABB」という形式の反復であり、「清潔で美味しい」という意味合いで用いられ、「ráan (店)」を修飾している。(54) の「kèe kèe chík chík (格好いい・格好いい・シック・シックしている)」も (53) と同じように複数の形容詞が「AABB」という形式で用いられている。「kèe」は英語の「gay (華やかな、きらびやかな)」からの借用語であり、そして「chík」も英語の「chic」の反復であり、「kèe kèe chík chík」は「シックで格好いい」という意味合いで

「sɔŋ phǒm sǎn (ショートヘア)」を修飾している。(55) の「dam dam (黒い・黒い)」は「taa (目)」を修飾し、「taa dam dam (あどけない)」という慣用句的な意味合いで用いられている。(56) の「chiu chiu」は (57) にある「chiu」と同じで、英語の「chill」から来て、「落ち着いている、楽な、リラックスしている」という意味で用いられ、「ráan (店)」を修飾している。(57) の「hùai hùai」は潮州語の「壞 hùai (悪い／劣悪な／さまにならぬ)」から借用して「性格が悪い、能力がない」という意味合いで用いられ、「phúan rúam ɲaan (同僚)」を修飾している。

上記の通り、形容詞に反復が行われると、名詞の修飾詞として用いられる。それらの反復語には、タイ語だけではなく、英語や潮州語から借用された形容詞も見られる。そして、単音節あるいは多音節の単純語のものもあれば、複合語のものもある。また、「AABB」という形式で複数の形容詞からなるものもある。さらに、それぞれの形容詞の本来持つ基本義のままで用いられるものもあれば、基本義とは違った意味合いで用いられるものもある。

2.3.2 形容詞→ 動詞の修飾詞

反復される形容詞は動詞を修飾するために用いられるものも多く見られる。本項では反復される形容詞が動詞を修飾するために用いられている例を (58) ～ (66) のように提示し、そこに見られる反復が行われた語の構成や反復後の意味についても記述していく。

- (58) sǎao Patty ca chǎwɔp tɛŋ nǎa ?ǎwɔn ?ǎwɔn.

パッティ (女優の名前) は 薄く化粧をする のが好きです。

[jelly. in. th/articles/celeb-natural-makeups]

- (59) nǎwɔŋ-sǎao khǎwɔŋ phǒm chǎwɔp phúut plèek plèek.

私の妹はよく 変なことを言っている。

[https://www.palovel.com]

- (60) sǎk wan man ca phǎan pai cɪŋ cɪŋ chǎi mái khá, khwaam-phít-wǎŋ, sǎa-cai, khwaam cèp-pùat.

いつか 確実過ぎ去って行く んですね、絶望、悲しみ、苦しみは。[https://pantip.com]

- (61) taai nɛɛ nɛɛ hàak khǎao nǐi pen rǎaŋ cɪŋ.

この噂が本当でしたら、本当にやばいです。

[https://cofact.org]

- (62) ráan duu sǎkkapròk sǎkkapròk nǎoi, tɛɛ rǎt-chǎat dǐi, raakhaa kǎ-thùuk.

店は ちょっと汚く見える が、味がよくて、値段も安い。

[宮本 2021:33]

- (63) pòet thiiwii bao bao, sǎaŋ man dǎŋ rǎpkuan khon khǎaŋ hǎwɔŋ.

テレビの音を小さく 下さい。音が大きくて隣の部屋の人に迷惑をかけているよ。

- (64) panhǎa phúut reo baŋ khǎŋ kòet càak rao hǎai-cai tǔn tǔn sǎn sǎn.

早くしゃべるという問題は 浅く短く息をしている ことに原因があることもある。

[宮本 2021:37]

- (65) kǎ-phúu-cǎt ?alanakaan daao láan duan ɲai, sǎa-phǎa kǎ ca duu wǎo wǎo nǎoi.

だって、豪華なのが好きなプロデューサーだから、(出演者の) 衣装は ちょっと大げさになる。

[宮本 2021:40]

- (66) ?ǎwɔk bɛɛp hùai hùai ɲaŋɲii chǎi mái dǎi. pai tham maa mài.

このように いい加減にデザイン をしては だめ。やり直下さい。

(58) の「?ǎwɔn ?ǎwɔn (やわらかい・やわらかい)」は「薄く」という意味合いで用いられ、「tɛŋ nǎa (化粧をする)」を修飾している。(59) の「plèek plèek (変わった／おかしい・変わった／

おかしい)」は「変に」という意味で用いられ、「phûut (言う)」を修飾している。(60) の「ciŋ ciŋ (本当の・本当の)」は「確実に」という意味で用いられ、「phàan pai (過ぎ去る)」を修飾している。(61) の「nêe nêe (確実な・確実な)」は「絶対に、間違いなく、必ず」という意味で用いられ、「taai (死ぬ)」を修飾している。ここでの「taai (死ぬ)」は「たいへん、やばい」というような慣用句的な意味合いを持つ。(62) の「sòkkapròk sòkkapròk (汚い・汚い)」は「どちらかと言えば汚い」という意味で、「duu (見える)」を修飾している。(63) の「bao bao (軽い・軽い)」は「(音を) 小さく」という意味で用いられ、「pàet thiiwii (テレビを付ける)」を修飾している。(64) 「táun táun sán sán (浅い・浅い・短い・短い)」は形容詞「táun (浅い)」と「sán (短い)」が「AABB」という形式で用いられ、「浅く短く」という意味合いで、動詞「hăai cai (息をする)」を修飾している。(65) の「wâe wâe」の「wâe」は英語の「over」から借用し、「大げさに」という意味合いで、「duu (見える)」を修飾している。(66) の「hùai hùai」は(57)の「hùai hùai」と同じように、潮州語から借用した「壞 hùai (悪い／劣悪な／さまにならぬ)」の繰り返しであり、「いい加減に、お粗末に」という意味合いで用いられ、「ʔòk bèep (デザインする)」を修飾している。

(58) ～ (66) の通り、形容詞の反復語は動詞(句)を修飾して副詞的に用いられている。それらの反復語には、単音節の単純語のものもあれば、多音節の単純語のものもある。そして、タイ語以外にも、英語や潮州語からの借用語のものも見られる。それらの反復語はそれぞれの形容詞の本来持つ基本義と同じ意味で用いられるものもある。またその中には、「AABB」の形式で用いられ、基本義が表す複数の状態が共起して行われるという意味合いで用いられるものもある。そして、基本義が強化されたり、弱化されたりするような意味合い、さらに、慣用句的な意味合いで用いられるものも見られる。

形容詞に反復が行われると、上記の通り、叙述形容詞の機能が存続される場合もあるが、反対に失われる場合もある。前者は、叙述形容詞としても名詞と動詞の修飾詞としても用いられている(44)、(50)、(59)の「plêk plêk (変わった／おかしい・変わった／おかしい)」に、叙述形容詞としても名詞の修飾詞としても用いられている(43)、(51)の「deŋ deŋ (赤い・赤い)」に、そして叙述形容詞としても動詞の修飾詞としても用いられている(48)、(63)の「bao bao (軽い・軽い)」に見られる。後者は、名詞あるいは動詞の修飾詞として用いられている(57)、(66)の「hùai hùai (悪い／劣悪な・悪い・劣悪な)」に、そして動詞または文節の修飾詞としてしか用いられていない(60)の「ciŋ ciŋ (本当の・本当の)」と(61)の「nêe nêe (確実な・確実な)」に見られる。それらの反復語は外国から借用された語では単音節の単純語の形容詞においてのみ行われるが、タイ語の形容詞においては単音節の単純語のみならず、多音節の単純語及び複合語、さらに「AABB」という形式で複数の単音節及び多音節の単純語において行われるものもある。それらの反復語にはそれぞれの形容詞の本来持つ基本義のままで用いられるものは見られない。すべての反復語は基本義と違った意味合いで用いられる。

3. 結論

2章で、タイ語の名詞、動詞、そして形容詞の反復語とそれらの反復語がどのような機能でどのような意味合いで用いられているのかについて述べた。それらを踏まえて、反復はタイ語だけではなく、外国語から借用された語においても行われるし、また単純語のみならず複合語においても行われることがあるということが分かった。さらに、多種多様な意味合いで用いられるようになった反復語はそれぞれの語の本来持つ機能のまま用いられる場合もあれば、本来持

っているのとは違った機能で用いられる場合も多くあるということも明らかになった。すなわち、語に反復が行われると従来注目されてきている意味的な変化だけではなく、機能においての変化も生じるということである。それらの機能の変化には下記の特徴があると考えられる。

第一に、反復によって変化する機能について。反復が行われても、その語の本来持つ機能は残されるものもあれば、失われるものもある。前者の場合、多くの反復語は語の本来持つ機能に加えて、修飾詞（名詞、動詞、文節を修飾する語をすべて修飾詞と言う：以下同様）としての機能も持つようになる。そして後者の場合、すべての反復語は修飾詞としての機能を持つようになる。

第二に、機能転換の方向性について。反復が行われると、多くの名詞と動詞は修飾詞として用いられるようになる。また、本来叙述形容詞としての機能と修飾詞としての機能の両方を持っている形容詞の多くも、反復が行われることで叙述形容詞としての機能が失われ、修飾詞としての機能だけが存続される。そこには、名詞⇄動詞、名詞⇄叙述形容詞、動詞⇄叙述形容詞のような変化の方向性は見られない。従って、反復による機能転換が行われる場合、名詞→修飾詞、動詞→修飾詞、形容詞→修飾詞、のいずれの場合もその転換の方向性は同じで、修飾詞の機能として用いられるようになるということが明らかになった。

第三に、反復語の機能と意味との関係について。語に反復が行われても、本来持つ機能が存続する語もあるが、本来持つ基本義のままで用いられるものは多くはなく、そのほとんどの場合は基本義と違った意味合いで用いられている。基本義が強化されたり、その反対に弱化されたりするものもあれば、複数や不特定多数が表されたり、継続的な行動が表されたりするものなど、意味においての変化が生じるものの方が多く見られる。また、反復されることで複数の機能として用いられることが可能になった語も、それぞれの機能において用いられる意味は同じものであるとは限らない。たとえば、(1) の「phúan phúan (友人・友人)」は原形の「phúan (友人)」と同じように、名詞の機能として用いられるが、「phúan phúan」は複数の友人を表している。(43) の「deɛŋ deɛŋ (赤い・赤い)」は「deɛŋ (赤い)」と同じように叙述形容詞の機能として用いられるが、「deɛŋ deɛŋ」は基本義が弱化されて「赤っぽい」という意味で用いられている。(34) の「yáat hàan hàan (親戚・離れる・離れる)」にある「hàan hàan (離れる・離れる)」と(39) の「yùu hàan hàan (いる・離れる・離れる)」にある「hàan hàan (離れる・離れる)」の意味合いには相違が見られる。名詞の修飾詞として用いられる前者は「遠い親戚」を表しているが、動詞の修飾詞として用いられる後者は「関わらない」という意味合いで用いられる。(24) の「yùu yùu pai (住む・住む・行く)」にある「yùu yùu (住む・住む)」と(40) の「yùu yùu (住む・住む)」も同じ意味合いでは用いられていない。動詞として用いられる前者は「住んでいる内に」という意味で、行動の継続を表しているのに対し、文節を修飾している後者は「突然」という意味合いを持つ。また、(57) と(66) にある「hùai hùai (悪い／劣悪な・悪い／劣悪な)」も違った意味合いで用いられている。名詞「phúan-rúam-ŋaan (同僚)」を修飾している(57) の「hùai hùai」は「性格が悪い、仕事の能力がない」という意味合いで用いられているが、動詞「ʔɔk bɛp (デザインする)」を修飾している(66) の「hùai hùai」は「いい加減に、お粗末に」という意味合いで用いられている、など。

第四に、造語における反復の重要性について。上述の通り、名詞と動詞に反復が行われると、本来の機能では用いられなくなっても修飾詞としては用いられるようになるものが多くあり、また、多くの形容詞に反復が行われると、叙述形容詞の機能が失われても修飾詞としての

機能は存続されるので、反復される名詞、動詞、そして形容詞はそれぞれの本来の機能だけではなく、その多くが修飾詞としても大きな役割を果たしていることが明らかである。前述のように本来タイ語では形容詞が叙述形容詞以外に修飾詞としても用いられる。しかし、本稿では、修飾詞として用いられるのは形容詞だけではなく、反復される形容詞、そして、反復される名詞や動詞も修飾詞として用いられるものも非常に多くあるということが明らかになった。要するに、名詞、動詞、そして形容詞の反復は、タイ語での多種多様な修飾詞を派生させると言えるし、言い換えれば、タイ語の修飾詞には名詞、動詞、そして形容詞の反復が欠かせない大切な造語法であるとも考えられる。

4. 今後の課題

上記に指摘した通り、語に反復が行われることによって派生される機能は、その語の本来持つ機能は存続されても、必ずしも同じ意味合いで用いられるとは限らない。修飾詞として用いられる形容詞に反復が行われても同様に修飾詞として用いられるが、同じ意味合いで用いられているかどうかはまだ議論されていない。たとえば、(A) 「*rāan nīi mīi khanǒm ?arǐi lǎai yàaŋ* (この店は美味しいお菓子がたくさんある)」にある「*khanǒm ?arǐi* (美味しいお菓子)」と (B) 「*rāan nīi mīi khanǒm ?arǐi ?arǐi lǎai yàaŋ* (この店は美味しいお菓子がたくさんある)」にある「*khanǒm ?arǐi ?arǐi* (美味しいお菓子)」は同じ意味合いで用いられているのかどうか、違った意味合いで用いられているとしたら、どのような違いがあるのかについてはまだ明らかになっていない。また、(C) 「*chán yàak thaan khanǒm ?arǐi ?arǐi* (私は美味しいお菓子を食べたい)」にある「*?arǐi* (美味しい)」は意味が変わらないのに反復語の形で用いられる必要がある。このように、修飾詞として用いられる形容詞は必ず反復を行わないといけない要因はどこにあるのか、などもまだ不明な点が残されている。これらの問題は今後の課題としたい。

¹ タイ語母語話者コンサルタントはバンコク出身の共通タイ語を使っている 40 代の女性である。

² 語の全体を繰り返すことで作られる反復語の表記方は、「*ดำ* (dam=黒い)」という形容詞の反復語を例にとると、「*ดำดำ*」のように繰り返し記するのではなく、「*mái yamók*」と呼ばれる反復符号「*๑*」を反復する語に後続して「*ดำ๑*」と表記し、「dam dam」と読む。

参考文献

- 富田 竹次郎
1990 『タイ日辞典』養徳社、天理。
- 三上 直光
2002 『タイ語の基礎』白水社、東京。
- 宮本 マラシー
2003 『タイ語表現法』大阪外国語大学、大阪。
2019 「タイ語における名詞の反復」『外国語教育のフロンティア』2、大阪大学大学院言語文化研究科、大阪、29-51。
2020 「タイ語における動詞の反復」『外国語教育のフロンティア』3、大阪大学大学院言語文化研究科、大阪、11-29。
2021 「タイ語における形容詞の反復」『外国語教育のフロンティア』4、大阪大学大学院言語文化研究科、大阪、29-43。
- Anchaleenukoon Sunan
2003 *Rabop Kham Phasaa Thai (タイ語における語の構成)*, Krongkaan Phoeprae Phonngaan Wichakaan, Faculty of Arts, Chulalongkorn University, Bangkok, 24-32.

- Bandhumedha Navavan
1970 Kaan Chai Phasaa Thai (タイ語の使い方), Kaan-Phim Satreesarn, Bangkok.
- Bruminhen Sujitra
1966 “Kham Sam Nai Phasaa Thai (Reduplication in Thai)” Master’s Thesis, Chulalongkorn University, Bangkok.
- Chuartchinnapa Pornthip and Paksasuk Amnat
2016 “English Words in the Formation of Thai Synonymous Compounds and Reduplicated Words” in Wannawithat, Vol.16, Faculty of Liberal Arts, Thammasart University, Bangkok.
- Gibson, Hannah and Yoneda, Nobuko
2018 ‘Functions of Verb Reduplication and Verb Doubling in Swahili’ in Journal of Asian and African Studies No.96, Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, pp. 5-27.
http://repository.tufs.ac.jp/jaas096001_full.pdf
- Iwasaki Shoichi and Ingkaphirom Preeya
2005 A Reference Grammar of Thai, Cambridge University Press, New York.
- Noss, Richard B.
1964 Thai Reference Grammar, Government Printing Office, Washinton D.C.
- Paksasuk Amnat
2013 ‘khoo Sangkeet Kiaokap Kham Sam nai Phasaa Thai’ arts.tu.ac.th/culture/010856.pdf
- Prasithrathsint Amara, Hoonchamlong Yuphaphan and Savetamalaya Salanya
2001 Thritsadee Waiyakorn (Grammatical Theories), Chulalongkorn University Printing, Bangkok.
- Sompong Supranee
1967 “Laksana Kham Sam nai Phasaa Thai (Characteristics of Thai Reduplications)” 修士論文、Chulalongkorn University, Bangkok.